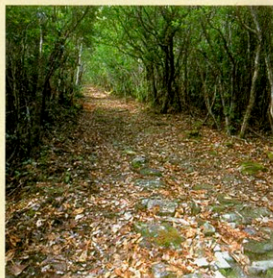


熊野参詣道小辺路 [紀伊山地の霊場と参詣道]

熊野参詣道小辺路は、真言密教の総本山・高野山と熊野本宮という二大聖地を最短距離で結ぶ参詣道で、熊野本宮から高野山へ向かう場合は「高野道」とも呼ばれていました。

伯母子峠・三浦峠・果無峠と1000m級の峠を3つ越えて熊野本宮へと至るハードなルートで、途中は山登りのきついアップダウンを繰り返しますが、石仏や地藏、苔むした石畳、茶屋跡や屋敷跡等、昔の古道の雰囲気や数多く残っています。

この参詣道は、ほとんどが山中を通り、昔ながらの歩き旅を体験することができます。



1 高野山～大股 P2,P3

高野山の中心部にある、金剛三昧院の参道から熊野本宮への小辺路が始まります。金剛三昧院入口で分かれた小辺路は、女人堂跡の残るろくろ峠、薄峠、大滝の集落を過ぎ、高野龍神スカイライン(国道371号)、林道タイノ原線の舗装道を歩くこととなりますが、水ヶ峰屋敷跡や平辻の道標地藏の周辺に古道の面影を見ることが出来ます。

2 大股～三浦口 P4,P5

大股からの道は急なつづら折れの急坂で始まります。萱小屋跡を過ぎ、松峠を越えると、いよいよ伯母子峠です。伯母子峠から15分程登ったところにある伯母子岳からは360度広がる景色を望めます。伯母子峠からの下りは左側が切れ落ちた山抜け跡等を通り、上西家跡からは、最近になって確認された旧道を進みます。途中、100m以上も続く石畳跡も残っています。

3 三浦口～十津川温泉 P6,P7

神納川にかかる船渡橋を渡ってすぐの三浦集落には石畳も残り、棚田が美しく広がっています。そこから少し登ったところにある吉村家跡には、防風林の役目をしたといわれるねじ曲がった大杉が見られ、さらに三浦峠までの道中には、道標地藏や二十五丁、三十丁の丁石等があります。三十丁石の近くには水場もあり、山登りの疲れを癒してくれます。三浦峠からの下りは比較的緩やかで、古矢倉跡・出店跡・矢倉観音堂を経て西中へとたどりつきます。

4 十津川温泉～八木尾 P8,P9

果無峠を越える道は、十津川村藤尾から田辺市本宮町八木尾へ至る参詣道で、小辺路最後の難所です。この道には三十三体(小辺路沿いには二十九体)の観音石仏が祀られ、道行く人々の安全を見守ってくれています。果無峠への登りは急ですが、木々の生い茂った道には石畳も残り、古道の雰囲気や漂わせています。道沿いの石仏の表情を楽しみながら、七色分岐を過ぎ、八木尾で国道に合流します。

5 八木尾～熊野本宮大社 P10,P11

八木尾へ降りると国道を進むこととなりますが、三軒茶屋跡で、中辺路と合流し、熊野本宮大社への旅はクライマックスになります。熊野の森を熊野本宮大社めざして30分も歩けば、熊野本宮大社裏鳥居手前にある祓殿王子です。昔の参詣者は、旅の汚れをここで払い清めて熊野本宮大社に詣でたといわれています。

大阪府



熊野参詣道小辺路

和歌山県

三重県

登山に当たっての注意

- 行程** あらかじめコースのみどころ、地形、距離、好ましい季節などを十分に調べて、自分の好みや体力にあったコースを選びましょう。行き帰りの乗り物の時間なども調べ、余裕のあるプランを組んで出かけましょう。
- 装備** 衣服:帽子、長袖・長ズボン、履き慣れたトレッキングシューズやスニーカー。持ち物:弁当、水筒、雨具、タオル、救急薬品、ビニール袋、着替え、防寒具、コンパス、地図、あめ・チョコなどの甘いもの。
※持ち物は必要最小限にとどめ、すべてリュックに入れて背負い、両手があくようにしましょう。
- 天気** 天気予報に注意し、天候が悪いときは無理せず予定を変更して、天気の良い日にゆっくり歩きましょう。
- 行動** 山歩きは、少なくとも2人以上のグループで行動しましょう。歩く前には軽い体操などで身体をほぐし、歩く速度はグループの人達の歩くペースに合わせてみましょう。
- 心得** 山道などには、人に危害を及ぼす危険な動植物がいることがあります。音の出る鈴などを必ず身につけましょう。特にクマ、マムシ、ハチやウルシなどには注意が必要です。



マナーを守って、楽しく歩きましょう。

- 入山時には、登山届を提出しましょう。
- ゴミ(弁当がらや空き缶・ペットボトル等)は、必ず持ち帰りましょう。
- 参詣道沿いの植物を傷つけない、自然の草花を持ち帰ったりすることはやめましょう。
- 歩きタバコやポイ捨ては絶対にやめ、喫煙マナーを守りましょう。
- お互いに気持ちよく挨拶を交わしましょう。
- 山中人気のない所や、携帯電話の通じないエリアもありますので、事前に計画をたて、無理のない行程で歩きましょう。